

## 母なる神の揺り籠

世界的な規模の吟遊詩人ギルド。本部がフィンに置かれている。吟遊詩人たちが歌い奏でる楽曲や、神話伝承などを体系づけて整理し、所属する吟遊詩人たちに教えたりしている。また、旅先での彼らの生活をサポートする役割も果たしている。

このギルドは吟遊詩人だけでなく、そんな彼らをサポートしたいと思っている一般の人々も加入できる。こうした人々はギルド内では"詩人の友"と呼ばれている。"詩人の友"は、訪れた吟遊詩人たちをもてなし、宿や食事を提供することで彼らを助け、その礼として音楽などを提供してもらう、という関係にある。リアスターグ各地の宿屋や酒場が、"詩人の友"としてこのギルドに加入し、吟遊詩人たちが本来の仕事をする場の提供もしている。

吟遊詩人は、単に音楽で場を盛り上げるだけでなく、各地で起こったニュースを伝えるという役割をも持っていたため、どこでも歓迎されることが多いが、そんな彼らが世界中を旅しても、あまり不自由を感じないのは、各地に"詩人の友"がいる、ということに依るところが大きい。

このギルドに加入している吟遊詩人は、金と銀で作られた二重鎖のペンダントを持っている。ペンダントには自分の名前が刻まれている。首にかけるだけでなく、自分が愛用する楽器に結わえたりするなどして、すぐに見えるようにすることが多い。そうすれば、"詩人の友"が助けを差し伸べやすいからである。この証は"金銀の鎖"という呼び名で人々にも知られており、吟遊詩人を表す代表的な言葉となっている。

一方で、"詩人の友"には、鮮やかな青と緑の格子模様の旗が配られる。これを戸口に掲げれば、自分が"詩人の友"であり、吟遊詩人たちをいつでも歓迎する、という意思表示になるのである。この旗を掲げているときに、"金銀の鎖"を持った吟遊詩人が訪れた場合、可能な限りの支援をしなければならぬ(無論、そのような余裕が無いときは無理に旗を掲げる必要はない)。

ところで、このギルドにはもう一つ、表立っては知られていない役目がある。それは呪歌謡いの保護と教育である。呪歌とは魔法的な効果を持った歌や音楽のことであり、リアスターグでは時として、自分の歌声や楽器で奏でる旋律がそうした呪歌となる力を持った人が生まれる。その効果は限定的なものではあるが、基本的にその音楽を聴いたものすべてが影響を受けるため、何も知らないまま力を振るうのは危険でもある。

そこで、"金銀の鎖"を持った吟遊詩人たちは、各地を旅してこうした呪歌の力を持っている人々を見つけ出し、その力について教えると共に、制御の仕方などを学ばせるために、フィンにある本部へと連れて行くのである。

無論、殆どの吟遊詩人たちは呪歌の力を持ってはいない。時には、相手の呪歌の力が強力すぎて、手に負えなくなることもある。その時はそうした呪歌に対抗できるだけの実力を持つ呪歌謡い(もちろんギルドに加入して訓練を受けている)の派遣をギルドに要請する。

"吟遊詩人"と"呪歌謡い"は、はっきりと区別される異なる立場ではあるのだが、音楽を愛するという意味では、どちらにも違いは無い。このため、ギルドでもその二つの違いによる扱いの区別はしておらず、呪歌の力の有無によって与えられる"金銀の鎖"が変わったりするようなことは無い。

このギルドに加入する限り、呪歌謡いであっても、吟遊詩人として働けるように訓練されるのだ。自分の子供が不可思議な力を持っていて対応に困っていたときに、このギルドの助力を受け、それに感謝して"詩人の友"となりギルドを支援することを決めた、という人も実はかなり

多い。

ちなみにギルド名の " 母なる神 " とは慈母神ティナリアのことである。自然の守護者であるティナリアは、同時に芸術や芸能の才を祝福する女神でもある。ティナリアは、特に音楽の才能を持つ者を祝福するといわれており、美しい歌や演奏の才能・・・それに呪歌の力も、全て女神の祝福によって与えられた、とされる。これにちなんで、このギルド名が付けられた。

---

幻想世界リアスターグ > 地理 > 中央 > 母なる神の揺り籠

---